

広報 肱川 特集号

町創立40周年記念



町政のあゆみ

明治22年12月

中津、椋谷、植松、川崎、宮谷、横山村が合併して奥南村となる。

明治23年1月1日

宇和川村、名荷谷村、中居谷村が合併して宇和川村となる。

明治42年4月1日

山鳥坂村、奥南村が合併して河辺村となる。

昭和18年4月1日

上浮穴郡浮穴村を廃し、内大字北平、大字川上の区域が河辺村に編入された。

昭和18年4月29日

河辺村、宇和川村、大谷村が合併して肱川村をつくる。

昭和23年4月1日

旧宇和川村のうち大貸、香路部落が分離して大川村（現大洲市）に編入した。

昭和26年1月1日

旧河辺村の一部が分離して河辺村をつくる。

昭和30年2月11日

東宇和郡横林村及び貝吹村のそれぞれ一部を合併する。

昭和34年11月3日

町制を施行し現在に至る。

町勢

町制 昭和34年11月3日

面積 63.35km²

人口 3,907人

(男) 1,919人

(女) 1,988人

世帯数 1,078戸

(58. 住基台帳)

人口密度 61.7人

農家数 788戸

農業就業人口 2,176人

農業粗生産額 1,135,000千円

商店数 60戸

商店販売額 683,970千円

一般会計予算額 1,580,000千円

(58. 当初)

時代は流れていきます。そして変わっています。人の心も変わってと言われます。

今ほど「ふるさとづくり」「地域づくり」が言われているときもありません。町内では、いろいろな機会にこのことが話し合われ、それぞれに試みられておりますが、それは、今、脇川町にとつて、さけて通ることの出来ない最大のテーマであるからです。

町創立四十周年という記念すべき年である、昭和五十八年十一月二十一日、脇川町公民館、川上商工会と共催で、「手づくりのふるさと」と題する文化講演会が開かれました。

講師は、萩原茂裕先生という、地域づくり・地域問題の第一人者でした。

私たちは、この貴重な講演を、自分たちのこれから「町づくり」を考える最良のヒントとして生かしていきたい、そんな思いから、講演会後、町内各分野のリーダーの方々がたにお集りいただき、文化講演に学ぶと題する「ふるさとづくり座談会」を開きました。

この特集号は、そのときの模様を収録したものです。

明日の脇川を考える中で、いろいろな分野で、この特集号が有意義に活用されることを願っています。

0周年記念 りのふるさと

萩原 茂裕 先生

講師紹介

萩原 茂裕 氏

北海道旭川市出身、昭和4年生れ。慶応義塾大学経済学部卒業。全国の都道府県市町村の地域開発など「まちづくり」に関するプロジェクト計画に参加、特に地域の特性や地元住民の声を反映した構想・計画づくりで評価が高い。

著書に「手づくりのふるさと」「日本人とまちづくり」などがある。

現在、埼玉県浦和市において「日本ふるさと塾」を主宰。

心の角度を変えて 物事を見つめよう

地図をさか
さまにした
ような話

私は脇川とい
う町がまだまだ
よくなつてもら
いたい、そのお
手伝いの一人と
して来たわけで
すから話だけで
と決してとって
いただきたくな
いと思います。

その話はどんな話かというと、地図がさかさまのような話であります。というの、心の角度を変えて物事を眺めて見ようというこ

供の教育にもいろんな面で教わります。

あなたのふるさと
どこですか…

私は乗り物に乗りますと、隣へ腰かける人に必らず声をかけます。

何年か前の話です。丁度夏休みでした。新幹線の中で、ふるさとへ帰るような格好をした学生達が大勢乗っていました。ふつと見ますと、私の隣に女子学生が乗っていました。私は女性が乗りますと、声をかけます。

その時も隣に座った女子学生の様な人に「あなたのふるさとどこですか」と聞いたんです。ふるさとというのは、市か町か村しかありませんからね。「あなたのふるさとどこですか」と聞くと、困った顔をしたんです。

「バスに乗ります」ときたんです。そんな町名ありませんね。あそこには、それぐらい知ってますからね。そうなるって助け舟「何時間ですか」「一時間半」「どちらの方向ですか」「高知の方向」さあどこかわかりますね。私は詳しいんですよ、本当はこの当りに。松山から高知へ一時間半ですよ。

なんで町を聞いたのに、その人のふるさとを聞いたのに、困った顔をするのかなと思ひながら待っていました。

そしてどんな答が出てくるのかなと期待していると、彼女は「四国です」と言いました。私が聞いたのは、町か村か市ですよ。「四国にたくさん町や村があるでしょう。四国のどこですか」と聞いたなら、また考えこんで「愛媛県です」「愛媛県のどこですか」そうしたら、また考え込んでしまいました。「松山です」うそです。この人県庁所在地を三度目に言う人は私の経験でいうと、絶対うそですからね。そうなりますとね、本来意地が悪いんですよ、私は最後まで聞きま

自分のふるさとに
自信を持つ

私は教えてあげたんです。「あなたね、一時間半も高知の方へ走ると三坂峠があるでしょう。久万って町があるね。美川って



具体的事例を紹介しながら講演される萩原氏

肱川町創立40

文化講演 手づく

講師

心の角度を変える

高い建物がない、人口が少ない、だから駄目だと言うんです。これは絶対うそだと言うんです。

町というのは、宇宙にたった一つです。歴史も国土も生い立ちも全部違いますよ。ようく、目先を変えて、心の角度を変えて見たら、東京だってどこだって真似の出来ないものを絶対持っています。ところが高い建物がないから、人口が少ないから、駄目という心で物を見るから一つ一つ見ても何にも感動しなければ、素晴らしいとも思わないんです。

だから私が地図をさかさに貼ったのは、心の角度を変えてみなさいということなんです。そうでないと町はよくなりません。

村があるでしょう。柳谷って村もあるね」と言ったら真赤な顔をしちゃった。そして何と言ったと思いますか。「もう少し奥へ入ります」ここなんです。私が

四国の人、愛媛の人に教わったというのは、その人は自分の住んでいる所に自信が持てないんです。そういう人がいくら沢山いたって、その町は絶対よくなりません。私は町づくりの第一歩は、そういう人をなくす事だと思っています。

今、言った様な人は、今の日本人の多くがそういう心を持っているんです。つまり悪い心。



会場には約200人が参集して講聴

町づくりはやる気だけ

心の角度を変えてみなさいとい

いう事を教えてくれたもう一つの町があります。その町は、私のふるさと・北海道旭川という市です。

旭川にみる

町づくり

旭川は37万人の都市で北海道第二、第一は174万人の札幌で人口は100万の差があります。そして旭川と札幌の間を汽車で走りますと、だいたい1時間40分です。それだけ短い時間の距離に100万の人口差がある都市が並びました。問題が必ず起きます。

それは何か、買物客が旭川市から札幌へ逃げます。私がこれから言いますのは、まだ逃げていなかった頃の話からです。

テーマを持った

町づくりを

37年、旭川に五十嵐広三さんという人が市長になられました。この人、今は衆議院議員です。

市長さんになられた途端に「町は商品だ」と言いました。品物であると言うことです。

身の回り全部品物ですから。ところが品物というからには、必ずしななければならない事がありますね。宿命を持っておりま

す。それは時代時代に合う様に作り変えていかなければなりません。これは品物の持つ宿命、町も同じ事。町も商品というのですから。ところが品物を作り変えるときに幾つかのステップがあります。その第一のステップは、品物の名前を決める事ではないでしょうか。水差しを造ろう、だから出来るんです。町だって同じことです。どんな町を創るかという町の商品名。町は商品名とはいいませんから、町づくりのスローガンとかビジョンとか将来像とか、テーマはそこに住民に託しては、町づくりの合言葉ですね。これを決めなければならぬはずなんです。

そこで旭川の市長さんは、皆さん方と相談しました。そして創り上げた町のテーマを「人間都市旭川」とつけたわけです。

ここにあるガラスをちよつと見て下さい。これは形を変えようと思つたら、一度に形が変わりません。町は一度には創り変えられませんが、どこかの部分から創り変えていかなければなりません。そこで、人間都市旭川のどこから人間都市にしようかと考えました。

次ページへつづく

40周年記念行事

手づく特集

40周年記念式典



昭和58年4月3日、旭川町公民館で町の「40歳」を祝う町創立40周年記念式典を行いました。式典では、長年町民の模範として町政の発展に尽くされた富永廣氏、山内利政氏、香川亀久次郎氏に「町功労賞」が、また、安川正則氏、中岡義信氏、亀田美登氏、福田政章氏、森本鶴雄氏、下石政美氏、赤岩茂喜氏、松本藤寿氏、永田茂喜氏の9人に感謝状。町内88歳以上のお年寄り24人に金盃が贈られた。このあと、50年と100年後に開けるタイムカプセルの収納と、伊予市から特別出演の伊豫二名島扶桑太鼓で旭川町の新たな出発を祝いました。

平和通り 買物公園構想

30数万都市です。国鉄の素晴らしい駅があります。駅前約1km、真中は20m巾の国道です。車が何万台も走る駅前です。周りはデパートや大型店がズラッと並んでいます。そういう商店街があるんです。昔はこの通りをすーっと辿ると、陸軍の師団がありました。ですから戦争中は師団通りと言いました。戦争に負けたら、途端に平和通りと名前を変えたんです。そういう事で大変な商店街なんですよ。

ところが市長さんは、近い将来、必ずここが一番始めに困るだろう。なぜなら、買物客が逃げるから、だから人間都市の顔をここから創ろうと考えました。

そして具体的には人間都市と



旭川市の平和通り買物公園

いうのは「そのけ、そのけ車が通る」、これでは、人間都市ではない。だからこの真中の何万台も走る車を全部止めて、(約1km)、永久の公園にしようと言ったんです。それが平和通り買物公園構想です。

これが出た途端に、まず建設庁から、気違いとききました。国道を公園にすると言うんですから。約40万近い都市のメインストリートを買物公園にすると言うんですよ。商店街が全部反対、日本中からお前さんの市長は頭が狂ったんじゃないかといわれました。

立ちあがった青年達

ところが立ち上がった連中がいるんです。旭川青年会議所の人達、青年会議所というのは都市部にあります。40歳以下の経済人の集まり、この連中がやる気になったんです。ところが商店街の社長さん方は全部反対です。青年会議所のメンバーは息子さん達が多いんです。息子が賛成、親父が反対、どうなりますか。家庭争議が起きたんですよ。勘当するぞといわれました。

ところが、息子達は一生懸命説得しましたよ。商店街を創り変えるという事は、子供のため孫のためですよ。この説得を8年間続けました。8年ですよ。8年も続けたという事は、市

民の多くがやる気になって来たということですよ

失敗の許されない 町づくり

8年目がたった頃、市役所の若い課長が、市長の所へ行ききました。「市長さん、そろそろ8年目がたちました。実験的にも、やらせてくれませんか。」それま



真剣に講演を聞く参加者

でなっただけです。言い出しっぺの市長、そう言われたものですから、喜んで、「そうかそうか」と言うかと思ったら、「駄目だ」といったんです。そしてこうい

いました。

「今、君は実験的に買物公園を創ろうと言ったけれど、実験というのは本来失敗は許されるんだ。でもこの場合の実験は、絶対失敗は許されないんだぞ。」そうです。法律を曲げるんですから、下手すると、しかも車を全部止めると言う事は、この

中の車が旭川からすっかりいなくなると言う訳けじゃありません。どこかの道を通ります。そんなところで、交通量が多くなつて、交通事故が起きたらどうなりますか。それみた事かと建設省当りから、鬼の首でも取つたように言われますよ。そう事故が起こるから、こんな事はさせる訳にいかんと言われるに決っているんです。ですから市長さんは、そんな意味を含めて絶対という自信の持てるまで、少し時間を掛けろと言ったんです。8年も経っているのにまだ時間を掛けろと言った方も立派、言われた方も立派です。

普通ですと、「はいそうですか」と引き下がって来ますが、ところが、「絶対失敗させませんから市長やらせてくれ」と言いました。市長さん、その声 wait してたんなんです。そこで建設省・北海道庁・国に呼びかけてお役人に旭川まで出かけて来てもらって会議を開きました。

平和通り買物公園構想を説明して、納得してもらって、許可を下してもらう会議。この会議に私も出る予定でいたんですが、出られませんでした。心配しておりましたら、会議のあった夕方、旭川から電話がありました。「駄目でしたって」「駄目でした。会議はなかったですよ。」と言う訳です。駄目だったのに素晴らしい

郷土芸能大会

町内の各地域に伝わる文化遺産と民俗芸能を一堂に集めた郷土芸能大会を、旭川町生誕の日の4月29日に旧旭川分校で行いました。

午前10時、旭川中学校を出発した行列は総勢約200人。それはまさに、旭川の底力を象徴する勇壮な行列でした。

旧旭川分校跡地での厳肅な祭典では、町民の永遠の健康と五穀豊稔を祈願しました。ふるさとの舞いでは、各神社の六ッ鹿、八ッ鹿が優雅で哀調をおびた踊りを披露。そして勇壮な獅子舞い、さらに応援にかけつけた長浜の豊年踊りとつづきました。

あいにくの天候でしたが、先人の残した偉大な文化遺産と当時の生活に思いをはせ、現代に生きる私たちの役割を新たに心にきざんだ一日でした。



しいというのはどう言うことかと聞きましたらね、こういう説明をしてくれました。

まず、その会議に、建設省・北海道庁・国の役人が並んでいます。これは説明を聞く方ですからね。説明をする方、陳情する方は、市長さんを始めとして市の関係職員ですよ。商店街のお歴々が並んでいるそうです。買物公園の実行委員会の面々ですよ。そして先程いきました青年会議所の若者です。本部席に並んでいるそうです。いくら説明したって、建設省・北海道庁・国の役員は、やめさせようと思っ

若者の芽を

摘まないでほしい

商店街のお歴々がずらーと並んでいる中に、当時72歳です。山本さんとおっしゃる商店街の理事長が、突然立ち上がったそうです。反対をする役人に向って「今の世の中に、土・農・工・商という幻がまたあるんですか。私達商人がやりたいといっているんです。市役所がやれといっているんじゃないんです。そしてこの計画は、8年間で煮つめて来ました。その中心になっ



参加者の胸中にはふるさとづくりの発想が...

いる若者達が、今ここに並んでいます。この若い人達の芽だけはどうか摘まない様にしてください。私はこの話をよそに行つて何百回聞いていますが、今もこの話、じーんとくるのです。私は経緯を知って知ってますから、今素晴らしい発言をしてくれました72歳の商店街の理事長山本さんは、かつて一番反対してたんです。商店街は一人残らず反対したんです。それが8年経って、一人残らず賛成の側に回しました。誰なの力か、若者達の力です。そう言う素晴らしい発言がありました。また当もない計画を煮つめて行かなきゃならないと思つていたんです。ところが、突然、国から、2週間の許可が下りました。やつて見なさいと。2週間といえども、国道を公園に創り変えて見たんです。45年の話です。事

故一つ起きずに立派にやり遂げたのですよ。この臨時的な買物公園を創った時に、いろんな裏話がありますが一つだけ紹介いたします。

命をかけて

臨時的な公園を創る訳ですから、その中に花壇も臨時的に作ります。ヒューム管とか土管のような物を置いて中に花を植える訳です。その責任者の市役所の若い係長が無断で花壇の枠を注文してしまいました。許可が下りて無いんですから、課長や部長から、ハンコをもらえないんです。早く使いたいと思つたんでしょ。ところが見つかるまでに許可が下りたんです。問題は起きませんでした。成功しました。その後で彼は、当時の上司にこの話を漏らしたそうです。「私は申し訳けないことをしてしまいました。無断で花壇の枠を発注してしまいました。もしこの枠が使えなかったら、私は退職して、退職金でこの代金を支払おうと思つていた」と言つたそうです。一人の話ですが、当時の関係者は全部こういう心境でした。私もその一人です。その頃北海道を離れまして、東京に住んでいましたから、時々手弁当でこの計画の手伝いに行つたわけです。腹切るつもりでしたよ。首を賭けましたよ。間違つたら旭川は無くなりますよ。で

すから、皆んなそういう心境だったという事です。

やればできる

町づくり

2年後の47年、世界一の買物公園が旭川に出来ました。なぜ世界一というかと申しますと、私は世界中の買物公園と称される所を全部見て廻っております。だから胸はついていえるんです。



旭川市内

なぜ世界一かといえますと、一銭も貰わないうでやつた事です。今の世の中は、国や県からお金をもらわないと何も出来ないと言ってますね。私共がやつた時は、金など一銭も出ませんでした。始めから終りまで「馬鹿野郎」、「氣遣い」呼ばわりです。ところが47年に買物公園を完成させた途端に国は手の平を返す様に「お金あげますからやつて見なさい」と、日本中どこで出来ませんよ。私達は「馬鹿野郎」と言われてやつたんです。

旭川で去年の6月1日、買物公園の10周年の記念式典がありました。私も当然出て参りました。でも式典の始めから終りまでボロ・ボロ、泣いてました。周りを見渡しましたら、当時の関係者は、みんな泣いてました。でもこの後で、建設省の役員に会つて話をしておりましたら、当時の担当役人が、こういってましたよ。先程言いました会議の席へ出た時に70何歳かの商店街の理事長が青筋を立てて、俺達に「土農工商という幻がまだあるのか」と言われたあの時に「旭川の市民は本当にやる気だな」と思った。だからやる気のあ

る所には全面的に応援をしてあげ様と思った」といってました。だから私は、町づくりには不可能はないという経験者です。理論家では有りません。だから大きな顔をして言えるんです。町づくりはやる気だけ、そしてもう一つは、地図をさかさまに見るような心が大事だと私は教わりました。

【お知らせ】

今回は紙面の都合で、講演内容全文を載せることができませんので、今後町報「ひじかわ」に順次載せさせていただきますので、ご了承ください。

文化講演に学ぶ

ふるさとづくり座談会



ふるさとづくりについて真剣に話し合った座談会

出席者

農業委員会委員 森 繁 夫	岩谷小学校教諭 土 井 豊 城	青年団 富 永 廣 次
肱川農協金融課長 土 居 貞 丸	肱川町公民館・中央分館長 菊 池 昭 三 郎	肱川町農林課長 宮 田 章
肱川町森林組合参事 堀 井 一 男	婦人会長 三 井 芳 江	〔司 会〕 肱川町公民館長 大 本 清 光
川上商工会青年部 三 瀬 次 男	大和部落長 山 本 保	

見直そう私のふるさと

司会 肱川町にとっては大型の文化講演会だったと思うのですが、皆さんが感じられたことで、これだけはほかの人にも言っていてやりたい、伝えておきたいという感想もあろうかと思っています。

まず、そうした感想を話してもらってから始めたいと思います。

町へは人づから

A 本当に有意義な話だったと思います。先生が話された通り、私も、まず何をするにも「人づくり」だと考えている訳けですが、お話の中に出てきた市町村や他の成功している市町村の例をみても、やはり「人づくりから出来上がっていることを痛切に感じました。私達は、これから、肱川を背負っていく子供達に、そのことをしっかり教えていかなければならないと思いました。

失われた感激

司会 講演にもありましたが、町内をふり返ってみて、例えば、人々が物を見たり聞いたりしても、いちいち驚くということがなくなっていました。心の豊か

さ、やさしさがしだいに失われているのではないかと思うのです。それがしだいに、自分の生活だけを満していけば事足りる。隣近所は「まあええわい」とい



右から菊池さん・森さん・堀井さん

うことになっていっているのではないかと感じます。

驚きを失った。感激することなくなつた。そういう生活の中では、新しいアイデア等というものはなかなか生れにくいのではないか。将来、肱川を子孫にどういうかたちで残すか。こゝうなつてくるといふ不安や気兼ねや心配がある。

私達はここで、今までのものを清掃して、新しい感激をもつて、子供達に残すものを考えなければならぬのではないか。

こんなことを感じました。

B 私も、「人づくり」が大切だということ、かねがねわかってはいたつもりなんです、社会全体が、自分さえよければ——という考えが根強くなっている。現在、私も教員として、これから、そういう一つの方向をみんなが見きだめてやっていくことが、とても大切なんだなということが言えると思います。

学校では、知・徳・体と三拍子揃ったすこやかな子供を育てるということがいわれているのですが、ややもすると学力中心の考え方が強くなる。

しかし、今日の講演の中の手例で、ものに感動する子供、祖先を大切にすること、子供の育て方がいかに重要であるかを聞いて、認識を深くしました。私も原点にかえって、そうした考え方で子供の指導にあたりたいと思います。

変わった角度で

見つめる

C 時間を気にせずに聞けた講演というの、私の場合めずらしいのですが、今日は時計をみることを忘れていました。本当にすばらしい講演だったと思います。

先生は講演の前に町内を見て廻られたということですが、さすが見方がちがうなと思いました。私など、もう何十年も肱川



右から宮田課長・三瀬さん・富永さん

に住んでいて、ほんとにふるさとというものをみていないと思いました。こんなことでは、子供に大きなことも言えないし、子供がよそに出たとき、自信をもってふるさとを話すことが出来ないのではないかと思います。

D 私も、一つひとつの事例に深い感銘を受けました。私は母親として、子供達は、肱川の水のように、きれいな心で育ってほしいと願っていますが、そのためには、母親の姿勢が最も大切なんだと強く感じ、共感をもって聞かせていただきました。

自分たちが

燃えなければ

E この町でもそうですが、成功した事例を聞くと、必ずその町では若者が燃えている。

ぼくらは肱川にいて、何とか食べられるから、何も気にせず、満足したままで生活しているような気がします。だから、肱川をほんとに肌感じていないと思います。

でも、それではいけない。地域のことや先輩から教えられたことをしっかりと身につけて、ぼくらが燃えなければいけないんだと感じました。

F 私達、商工会青年部としては、地域に貢献するという使命感を持っていますので、今日の講演は意義がありました。

なるほど「人づくりから」ということは頭ではよくわかる。しかし、現実はどうするか、となるとなかなか具体化できない。それから、話を聞いていて一番身につまされたのは、私がいかに地域を知らないかということです。町内全域を見ても、知っているところはほんとは少ない。

五九年度には、青年部で町内をみて廻る計画がありますので、その時に今日の講演を是非仲間に伝えたいと思います。

肱川にも

テーマがある

G 私も今日の講演は感動しました。しかし、感動しただけではいけないので、今日の講師のように、燃えてふるさとをみつめていくということが大切だと



右から土居さん・大本館長

感じました。

私は、ずっと肱川に住んでいるのですが、肱川に住んでいてよかったなというのを再確認しました。

今日の事例を聞いても、すばらしい地域にはすばらしいテーマがある。肱川だって同じだと思えます。そして、そのテーマに関係した材料の発掘は、町民全体が同じ土俵に上がって相撲のやりとりをする。さらにそこで色々なものをみつけて、肱川のよさ、ふるさとづくりを考えていくことが非常に大切だと思います。

H 私が特に感じることは、私自身、森林組合関係のことであれば、町全域のことは、ある程度わかっているつもりです。しかし、他の関係のことはわからないので、肱川を十分知らないと思います。

それから目的と手段というところで考えるのですが、色々な事業や施策をうち出しても、目的と手段がはつきりしないために住民に十分理解されないことがあるので、このことをよく認識して努力する必要があるということを感じました。

知ることとは

愛poveru

M 今日の話は心の中の話だとは思いますが。親の立場にあるものとして、本当に考えねばならぬことを言われたと思います。

肱川町に、肱川の子供にふさわしい教育がどこかにあっているし、肱川を愛する教育をするにはどうするか、これが課題だと思います。肱川を知ること、肱川をよく理解することが、ふるさとを愛することにつながると思われたと思います。

K 私も今日の話を聞いて、自分が、学校教育36年ほどやった経験、それから公民館の仕事をしながら、町内のことをどれくらい知っているかを考えながら聞きましたが、ほんとに何も知らないということに驚いています。

今後は、地域のことを勉強しながら、特に、若い人達との結びつきを大切にしていきたいと思っています。

次ページへつづく

記念誌

「40年のあゆみ」発行

昭和18年に肱川村が誕生して40年、この間にはいろいろな事がありました。

第二次世界大戦の終結、鹿野川ダムの建設、中学校の統合、各種事業の実施と皆さんもいろいろなことを思い出されることと思います。

町では、40周年記念事業の一つとして記念誌編さん委員会を発足させ町内にうずもれた資料などの収集を行ない、昭和18年から現在までの主な出来事を写真入りで「40年のあゆみ」としてまとめてみました。

内容は名誉町民・栄典・記念式被表彰者をはじめ歴代の町(村)長・助役・収入役・歴代議会議員名簿と、町内の出来事を年を追って掲載し、この中にはその年の米の価格や当時の流行歌、近年ではレコード大賞曲を載せるなど当時を思い出すものにしてみました。



どう見直す 私のふるさと

司会 私達は、それぞれの分野で重要な役割をもっているわけですが、地域づくりのためにあれはこういうふうに直した方がよいというようなことを話して下さい。

A 子供や若い人に対して、昔のことを言うことは無駄なことだ。またそのことによって自分の権威がそこなわれるのではないか。そんな遠慮からか、今はものを言わない年寄りが多くなったということだ。

ところが、昔から「年寄りはかたづめて使え」ということがありますが、それを地でいくような話で、おもいきり使うことが老人福祉だというようなことを今日話されていました。

私は、年寄りも積極的に出ていくべきではないか。それを使うのは、いわゆる中年の親であって、その人達が年寄りを上手に使って自分をカバーしながら子供に接していく。そこらの技術というものをと考えると考えなければいけないと思います。

B 確かに発想を変える必要が



右から三井さん・山本さん・土井さん

あります。そういうふうに物の見方・感じ方が小さな器の中しかみないと、それが最高だということになるんで、今日の話のように、考え方をえてみる必要があるなと強く思います。

M 色んな面で、人間を効果的に使う、使われる、使いやすくする。そのへんのシステムが一つの問題になると思います。

先立つ

ソロバン勘定

K 若い人と話していても、何かやろうとすると、例えばボランティア的なことになると、疲れるからやめようや、本来の青年団の仕事が出来ないからやめようやとよく言います。

商売や打算をぬきにして、好きでやることならそんなことは言わないんです。

農業でも、農の心からいいま

すと「農業はソロバンじゃない」といいますが、何をやるにもソロバンが先になるといいたいと思いませんか。

E 僕は、一度出て肱川に帰ってきたのですが、肱川はやはりふるさとですから本当に安心していられます。

しかし、これからの肱川といわれても僕らにはピンとこない。今の青年団員も、自分のことで精一ぱいです。

司会 ほんとに腰を落ちつけて、これでやるぞという気がまえを持つことが大切だと思います。肱川にしていると安心という平和さだけでなく、そこから

一歩ぬけだすことがとても大切な時期です。

G 若者が奮起するような場を与えてやることで我々先輩の今やるべきことだと思えます。

そのことによって、若者が成長していく。そして、お互いが支え合って考え、肱川を立てなおしていく。そのような気持や条件の中から、新しい何かをみだしていくことを我々は考えていきたいと思えます。

今は金がないと農業もやっていけない時代になった。しかし、農の心は大切なので、そ

のへんを若者の力で脱皮していくということを考えなければと思います。

E 人づくりも、豊かになったために出来ないということもあると思います。

司会 その通りかも知れませんが、今日も先生が雑談である意味のことを話されましたが、その思いは、もう満ちたりてしまつて気力もなくなつてしまつておられました。

だから、人間かるくやせとくことがいい。つまり、何か足りない状態でこそ進歩するということも言えると思います。

司会 色々な意見が出て来ましたが、さて、ここで、すぐに肱川がよくなるという名案は出ないかも知れませんが、何か将来に向つてのヒントのようなものはどうでしょう。

一つのテーマを

みんなで考える

A 町づくりは役場や農協の職員がするもんじゃない。周りの町民が皆んなで考えてつくるものだ。それには、一つのテーマがいる。そこへ皆んなが集中していくようにならな

記念碑と タイムカプセルの埋設

肱川県立自然公園の一角に、「美しい自然・人情豊かなわが町の誇りを未来に継承するため、ここに肱川町創立40周年をひとつの節目として記念の碑を建設し、併せて、碑下に未来へのメッセージ・各種資料を収納した2個のタイムカプセルを埋設した。これらのひとつは50年後に、さらにひとつは100年後に掘り出され、豊かなふるさとづくりと青少年の学習素材として活用されることを期待する。」と刻んだ記念碑を建立しました。



なお、記念碑の下に埋設したタイムカプセルの中には、役場および町内各種団体から収集した文献・資料など30数点。町内の穀物・食用加工品・嗜好品類が20種余。

写真による町内の各種施設・集落・行事・農作業等の記録。その他、新聞・カタログ類・特に、町内全小学校高学年生の

ればいけないと話されましたが、
 肱川もその方向への意識づけが
 必要だと思います。

G そのためには、啓発活動を重点的に行うことが大切だと思います。そして、何よりも、肱川をよくしていくということで、各機関団体のトップやリーダーのかたがたが同じレベルで物を考えなければならなしし、町民参加の色々なプランをつくっていく。ただいきなりやってもいけないので、そこから考える必要があると思います。

C 一方では、住民も色々考えたり感じていることもあると思います。今日、私達が話を聞いて感激し、考えることも沢山ある。そうしたことはとり上げてルートにのせることが大切です。

M ルートにのせるという意味では、肱川には部落長会という立派な組織がある。

これは、町民の意見を聞くということでは最もいい組織なんだから、もっと生かすべきだと思います。

みんなが

問題意識をもつて

F 昔は部落常会でも、問題が出るのと腕まくりして、喧嘩腰になりよった。ところが今はもう、何の話でも無事通過、部落長が言ったら「まあええぞよ」。つまり、満たされた中で、あまりに

もおとなし過ぎる。これでは、部
落長が意見をひっさげてくる
ような材料がない。

B 部落常会には、話し合いの時間を多くとったらどうだろう。時には、町や各団体からテーマをなげかける。常会の運営の転換を図る必要があると思います。



他の町にない部落常会

D 私はいつも思うんですが、町や団体の色々な連絡事項でも、末端まで伝わらない。もう下へ来ると影がうすくなつて、こうなると質問も出来ないし、こんなところを、もつと徹底出来る方法はないものでしょうか。

M 部落長会や部落常会の運営や発想の転換については、今までも町において色々試みをされたと思いますが、なかなかうまくいかない。結局、部落長さんを選出する方法に問題がある部落が多くなったのではないかと

思います。例えば、当番のような形で選んでいる部落が多いのではないか。

F しかし、適任でなくともやってみるところに意義もあるのではないかと思ひます。何ごとも勉強といひますが、経験することとは大切なことで、それが人づくりに通じることになると思ひます。

人づゝは

自分を変えること

C 結局、人づくりというのは誰かに頼んでつくってもらうものではなく、自分が自分でつくるもの。どこかで自分を変えていくという意識が大切なのではないでしょうか。

H 自分を変えろということとは大切だと思います。そして、変えろなら、山に木を植えてこつこつ育てていくような人に変ってほしい。

私は常に、山づくり、人づくり、町づくりという考えを持っています。

何を残せるかということであつて、
死んでも木は残る。死んでも木は残る。
死んでも木は残る。

るといふこと。今は、決して森林の状況はよくないが、しかし、将来のことを思うと、脇川の場合は、どうしても立派な山林を残す必要があると思ひます。山は、ただ林業経営という面だけではなく、私達の生活に



町づくりを皆んなで考えたい…

どれ程大きな役割を果たしているか、そのことを考えていた。
きたい。

光る

感受性を持つて

G 今日は、明日のふるさとづくりということで話されて来ましたが、講師の話をふまえたとき、ふるさとづくりは人づくりと言われています。

やはり、私達は、道路をつくったり、いろいろな整備事業をしたからといって、それで満足していくような考え方ではない。その上に何をつくるのか、そしてら生活がどう変わっていくか、そういったことも考えていく必要があると思います。ですから、我々が課題を背負ったかたちで肱川町をみつめていくということが大切だと思います。

また、教育の問題も出しましたが、これも、肱川教育として、肱川町の農業、林業等総合計画をつくり上げ、それを後世に伝えるための教材とし、肱川のよさを認識させるような教育の在り方も考えなければならぬ。さらに、うずもれた財産を発掘しながら肱川のよさを見つけて、それを子供達につないでいく。

ですから、今日の講演会の意義は非常に大きくて、私達が今まで教わってきた先輩の皆さんの知恵も借りながら、課題をもっとと研究していくことが大切だと思えます。

司会　ありがとうございます。
まとめの話も出たようですので、このへんで今日の座談会を閉じたいと思います。



想い出・未来の想像と夢を託した作文・脇中生の未来の脇川町を想像した絵図などは、それぞれ個性あふれた作品を頂きました。又、町内外の有志からの「後世に伝えることば」と題した貴重な手記も収納しています。

町創立40周年(昭和58年度)にはこんな事業が完成しました



新農構事業
予子林地区区画整理

事業量6ha・事業費75,000千円



町営住宅・中野団地 4棟・事業費49,820千円



地域改善事業・上中野地区道路改良舗装工事
事業量902.0m・幅員4.0m・事業費168,862千円



白石集会所新築工事

木造平家建・面積97.47㎡・事業費7,622千円



鹿野川簡易下水道工事

事業量管渠300m・水路285m・事業費27,400千円



県営農免農道
道野尾線新設工事

事業量190m・事業費24,000千円

40周年記念スローガン

肱川の土にきずけ道標
めざせ繁栄